

能動的な英語のリスニング練習とは

名古屋語学教育研究室
林 姿穂

一、はじめに

語学の学習及び習得において欠かせない事は、4技能をバランスよくトレーニングすることである。4技能とは「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」である。このうちの2つの技能、即ち「聞く力」「読む力」をつけるため学習は一般的には受動的な学習のように捉えられがちである。

しかし、母語である日本語でニュースや新聞を読んだり聞いたりする時、情報をキャッチすることを受動的にしているわけではない。例えば、出かける前に行き先の天気を確認しようとテレビをつける時、自分に関係の無い地域の情報まで注意深く全てを聞き取ろうとすることはまずない。その際に、関係のない情報は聞き流し、関係ある事柄だけを記憶しようと試みるはずである。母語の場合、それを無意識のうちにやっていることが多い。これは「聞くこと」だけに限らず、新聞のように情報量が多い物を読む時も同じことが言える。必要な情報だけを見つけその部分を熟読するという取捨選択を能動的におこなっている。この行為こそが能動的な「リスニング」および「リーディング」だと言える。外国語である英語でも無意識のうちにこのようなことができないのであろうか。英語学習を効果的に進めるために、能動的なリスニング力強化法について述べたい。

二、より多くの情報量を聞き取るために

様々な問題集や学習書で「英語耳」という言葉

が頻用されているが、英語耳の定義をまず説明したい。「英語耳」とは日本人にとって聞き取りにくい子音を正確に聞き取り、日本語に変換することなく、聞いた英文が瞬時に理解できる「耳」である。

日本人は母音を聞き取ることには不自由を感じない傾向にあるが、子音の聞き取りには慣れていない。そのため、“test”「テスト」が「テス」のように聞こえたとき、全く意味が分からなくなってしまう。日本語に変換することが困難になり、基本的な語彙レベルの文章であっても理解に苦しむケースは稀ではない。相当量の英文を、母語に変換することなく理解できる能力を身につけるにはどのような能動的学習を取り入れればよいのか、その効果的な方法について TOEIC リスニング対策と関連付けながら述べてみたい。

第一に、聞こえてくる英語の音に対して身構えないことである。例えば TOEIC の場合、短い会話文やアナウンス文が放送される。その際に身構えて緊張するあまり、音だけを追いかけて大まかな要旨を捉えていない学習者が目立つ。まずは相手が一番言いたいことをざっくりと捉える練習から始めるべきである。相手の主張やメインアイデアをとらえることを目標におくことをすすめる。相手が一番言いたいことは何なのかを追いかけて聞くこと、即ち、相手の意図を組み取ることを目標にするべきである。そしてメインアイデアを簡単な英文で要約するとさらに効果的である。英文が理解できていなければ要約はできない。また「要約」という目的を持って聞くこともできる。このような聞き方は能動的なリスニング学習の1つと言えるだろう。

次に教材選びについて述べる。多くの学習者から「どの問題集を使えばいいのか」と頻繁にたずねられる。選び方のポイントとしては、ナチュラルスピードで読まれている CD とスクリプトがついているかどうかである。日本人学習者のためにスロースピードで読み上げられている CD は英語のスピードについていく力を鈍らせるだけなので好ましくない。ナチュラルスピードであっても必要な情報だけは聞き逃さないという姿勢で目的をもってリスニング学習は行うべきである。またざっくりと要旨を捉える練習をするときは、少々わか

らない単語が出てきても立ち止まらず、ある程度まとまった分量を聞くべきである。内容と論の流れをつかむためにメモをとってもよいだろう。そして徐々に細かい情報もメモに残し、自分の言葉でリフレーズ（言い換え）しながら内容を誰かに説明すると会話力も高まる。

以上のような心構えでリスニング学習をすすめていくと、英語耳に変化することが期待できるばかりでなく、「聞くこと」以外のスキルも上達する。会話力、英作文の能力、これらは相互に関係し合っていることを念頭において学習を進めるべきである。

三、TOEIC 対策としての能動的リスニング学習

TOEIC 対策のためのリスニング学習を「受動的」だと感じている学習者が多い。リスニング問題を解く際に、放送文を聞いて、答えを選び、その正解・不正解によって一喜一憂する学習者は少なくない。これは受動的なリスニング学習ではないだろうか。

さて、能動的リスニング学習をするにあたり TOEIC 問題集を如何に活用すべきか、その方法について幾つか提案したい。

まず、TOEIC の Part2 の問題を取り上げてみよう。英文が一文読まれ、応答文として適切なものを選択肢から選ぶ問題である。1 度しか放送されない文章を聞き落とさないために、音を追いかけるというよりはむしろ日本語の音との違いを意識する習慣を身につけるべきである。英語の音の特徴についての理解を深めることをすすめたい。例えば “What are you doing?” は、カタカナにすると「ワラユドゥーイング」と聞こえるため、「ワラユ」の部分の意味さえも理解できない学習者を時々目にする。スクリプトを見た後に、中学 1 年生程度の英語なので愕然としてしまう学習者もいる。

そうならないために、音の連結と変化を「意識する」ということから始めてもらいたい。これも 1 つの能動的リスニング学習となりうる。音が連結して変化することを知識として学ぶのではなく、より多くの TOEIC 問題に触れ、連結に対して意識を高めるべきである。例えば、カタカナで「ワ

ラユドゥーイング」のようにスクリプトの余白に書いておくのも良いだろう。今回は音の連結を例に取り上げたが、語尾の弱い発音、“school” 「スクール」が「スクー」に聞こえることにも意識していただきたい。ここでは、その他さまざまな音の変化については割愛するが、以下のようなサイトを活用し、英語の音の変化の例を確認しておく今後の学習に役立つであろう。

「英語発音・聞き取りの基礎」

杉野健太郎 ジョセフ・ラウアー

<http://sugp.int-univ.com/Material/Arts/EnglishL/>

四、さいごに

ただ英文を聞いて「何となく」幾つかの単語が聞き取れたという段階から、要旨が理解できる段階へと進めるにはそれ相応の努力と日々の学習が必須となる。毎日、15分から30分程度でも構わないので、以上のようなことを意識しながら能動的なリスニング学習を継続的に取り入れてもらえらと思う。

アイスランドの風景

経営学部

古川 邦之

ついに行ってきた !!! アイスランド !!! 名前が安易すぎる !!!

ということで、2008年8月15日から2週間ほど、アイスランドに行ってきました！国際火山学会での発表と、地質調査が目的です。そこで今回は、街中の様子を少し書きますよ。

みなさんアイスランドはどこに位置しているか